

「東京電力株式会社本店 要求活動」【概要】

■日 時 平成23年9月2日（金）15：20～16：10

■場 所 東京電力株式会社本社ビル3階

■出席者 東京電力株式会社

代表取締役 西澤俊夫 ほか
福島県原子力損害対策協議会
副会長 庄條徳一（JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償
対策福島県協議会会長）
副会長代理 田中清一郎（福島県商工会連合会副会長、双葉商工会会長）
代表者会議議長 松本友作（福島県副知事）
各種団体代表者、市町村関係者

■内 容

1 協議会から要求書の手交

【協議会副会長 庄條徳一】

※ 庄條副会長から西澤俊夫代表取締役へ要求書を手交。

【東京電力(株)代表取締役 西澤俊夫】

○ 当社の原子力発電所の重大な事故により、福島県の皆様に多大な御迷惑と御心配、御不便を掛けていることを心からお詫び申し上げます。



2 質疑応答（主な発言等）

【協議会副会長代理 田中清一郎】



○ 福島第一原子力発電所による放射能事故に伴い、私たちの生活の糧である事業の停止を余儀なくされ、もう半年を迎えようとしている。この間、われわれ中小企業は収入ゼロ、避難生活においては、劣悪で過酷な状況の毎日が続いている。

○ 被災を受けた状況が続けば、体力が消耗し、長年築き上げた雇用関係など経営資源の流出がある。1日も早い現場復帰と事業を再開したときの経営環境が安定

的になるまでのランニングコストについて賠償の対象となるように願う。

○ 事故収束に向けては、地元企業を優先して活用してほしい。

【東京電力(株)代表取締役 西澤俊夫】

○ 心に受け止める。一日も早い事故の収束に全力で取り組む。1歩1歩前進し、地元企業の活用や協力を得て、十分に検討し対応する。



【大熊町長 渡辺利継】



- 3月11日の震災、原子力災害により全町民の1万1千5百人が避難を余儀なくされており、そのうち35%の4千人が北海道から沖縄までの県外に避難している。
- 今回の賠償に関し、誠意を持って、速やかに、この悩み苦しんでいる町民を救済してほしい。避難者はいつ帰れるのか悩み、早く帰りたいと願っている。生まれ育った町を廃墟にせぬよう、皆で頑張らなければならぬ。

東電は県民の再出発のため、全力で対応してほしい。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 住民の気持ちを私自身重く受け止める。1日も早く賠償も含めしっかり対応する。賠償の体制も整えつつあるが、丁寧にご相談に乗りながら、なるべく早く解決してお支払いをきちんと行う。

【福島県旅館ホテル生活衛生同業組合 副理事長 畠隆章】



- 福島県全域において、事故によりホテルを始め観光業が深刻な状況になった。
- 月日が経っても回復せず、一般客やコンベンション関係イベントのキャンセルが続いた。また、海外客もすべてキャンセルとなった。
- 5万人超が放射能被害を避けるため、避難している状況の中、県外、首都圏の人が福島県を観光の目的地とするのか。まさに風評被害そのものである。

- 今、毎日のように新聞、テレビのトップニュースで原発事故に関連する報道がなされている。福島県は放射能に汚染されているイメージが強く、観光ブランドが大きく傷つけられている状況にある。
- われわれ観光に携わるものに対して、十分な補償と復興の支援を切に願う。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- しかと受け止める。風評被害などはいろいろなケースがあるが、懇切丁寧にご相談して解決していく。

【福島県総合設備協会 小黒敬三（浪江町会議員）】

- 福島市笹谷地区の仮設住宅に避難している人の意見の中に「人間の尊厳とは何ぞや」というのがあった。仮設住宅に住んでいる人は、仕事もなく、生き甲斐もない、食べて寝て、家畜のようであり、人間としての暮らしがない。このような状態をどうしてくれるのか。補償だけでなく、人間としてのどうにもならない怒りでいっぱいである。そういった生活にある一人一人の住民を楽にしてあげたい。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 非常に重い言葉として受け止める。賠償も含めて被害者への対応を迅速に進める。

【福島県農民運動連合会 会長 亀田敏英】

- これまで東電の福島事務所と福島県産モモの交渉を行ってきた。本社とも調整し対応してもらえるなど、対応はよくなってきていると感じる。ただし、本社には今日で5回目の訪問だか、初めて中に入ることができた。会議室がない等の理由で断られてきたが、100人程度なので、今後は交渉の場に入らせてほしい。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 迅速に今後は対応する。不適切な対応を陳謝する。きちっと話を聞いて対応する。

【南相馬市障がい者施設NPO法人ホットユウ 村田純子】

- 東京電力の人に南相馬市に住んでもらい、福島県産のものを食べてほしい。そうすれば、全国の人が福島県産のものは安全だと分かり、食べてくれる。また、原発の状況を知っている東電職員が住んでいれば、南相馬市に安心して住民が戻ることができる。



【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 貴重なご意見として受け止める。当社としてできることはしっかり対応する。

【NPO法人あさがお(精神障がい者ケアホーム) 理事長 西みよ子】

- 障がい者は補償金を貰っておらず、家族で一番弱い立場であり、小遣いもない中で、非常に苦しんでいるので、このような方々を見逃さないでほしい。皆さん何かあると涙を流しており、一度、この状況を見に来てほしい。
- 障がい者施設は定員30人のところに60人が入所しており、指導者は本当にこれでいいのかと思うくらいの障がい者のケアに負われ、業務が多忙となっている。弱い人が犠牲にならないようにしてほしい。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 現地の事務所があるので、伺って意見をきちっと聞いて対応する。

【社団法人福島県薬剤師会 双葉郡薬剤師会 菊池成一】

- 社長を始め役員の方は、「ごめんなさい」や「考えてます」と言っているが、8月30日公表の賠償のスキームが不完全であり、細かいところなど直してほしいところがある。我々がなぜここに来たのか、その意味をぜひ考えてほしい。私は東電を信じて共存共栄でやってきた。責任を持って元の状態に戻れるよう本気でやってほしい。私の友達も東電職員として現場で復旧の仕事している。本店の役員の皆さんも誠意を見せて1日も早く戻れるようにしてほしい。



【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- グループの総力を挙げて対応する。8月30日に算定基準等スキームを示したが、詰め切れていないところもある。皆様とお話をしながら改善していきたい。

【福島県労働組合総連合 事務局長 野木茂雄】

- 中間指針に賠償の範囲の基準が示されているが、そこに含まれていない精神的損害も含めてすべての被害について賠償すると社長が明言してほしい。
- 東電の誠意がなかなか感じられない。今回の事故は社長の口から人災として認めるべきではないのか。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 中間指針も含め、いろいろなケースがあり、精神的損害や風評被害など審査会で継続して審議され、新たな取り決めができるので、それに基づいてきちっと対応する。
- 外部の専門家も入った社内の事故調査会において検証を行っており、結果についてはきちんと公表する。

【代表者会議議長 松本友作 (福島県副知事)】



- 昨日の東京新聞に「止まぬ福島差別」との記事があり、各地に避難している人の実態として、福島県民というだけでホテルに宿泊することができない、仕事に就けない、公園で遊ばせることができない状況である。真摯に受け止めてほしい。
- 最大限の誠意を持って、この会場にいる300人、またその背後にいる200万人の気持ちを受け止め対応してほしい。

【東京電力(株) 代表取締役 西澤俊夫】

- 本日の意見を重く受け止める。体制を整えて1日も早く賠償を行う。事故の収束について全力で取り組んでいる。ゴールはまだ先であり、グループを挙げて対応する。